

2024年4月14日

説教題「いのちの水」ヨハネによる福音書7章37～39節

主任牧師 加藤 誠

**「わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その人の内から生きた水が川となって流れ出るようになる」  
(ヨハネ福音書7章38節)**

37節「祭りが最も盛大に祝われる終わりの日に」。この祭りは「仮庵の祭り」と呼ばれるもので、ユダヤ教の三大祭りの一つです。「仮庵」とは「粗末な小屋」で、出エジプトの荒れ野の旅をしたイスラエルの民の先祖の苦労を偲ぶものであり、現代のユダヤ教徒の人たちも、家の中や庭に小さなテントを張って、その中で家族で粗末な食事をするなどして「仮庵の祭り」を祝うのだそうです。

主イエスの時代、祭りの最終日には、荒れ野で喉が渇いて不平不満をぶつけた民に対し、神さまが岩からほとぼしる水を出してくださった故事にならい、エルサレム神殿ではシロアムの池から金の器で水を汲んできて祭壇に注ぎかけ、その水が祭壇から四方に流れ出るのを見ながら、神さまの恵みを賛美する礼拝がささげられたそうです。

その様子を見ながら、主イエスが大声で叫んだのが今朝の箇所です。「渇いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい。わたしを信じる者は…その人の内から生きた水が川となって流れ出るようになる」。つまり、昔の出エジプトのストーリーを思い出しながらデモンストレーションとして注ぎかけられる水ではなく、主イエスを信じることによって、私たちの実存を新しく変える出来事が現実にも今、起こるのだ！…と言われたのでした。ここで主イエスが語られた「生きた水」とはどのような水なのか。そのことを今朝は聖書に聴いていきましょう。

「生きた水」とはどういうものかを考える手がかりの一つ目は、旧約聖書の預言者エゼキエルが語っている言葉です(47章)。エゼキエルはバビロンで捕囚になっている人たちに語りかけました。私たちの姿は「濁った水」に等しい。魚が息をできなくなり、死んでプカプカ浮かんでいる「死んだ水」に等しい。私たちには「生きた水」が必要だ。その「生きた水」は新しいエルサレム神殿の床から湧きだし、神殿の周りに流れ出して、世界を変える。「死の世界を、いのちの世界に変える」ものとなる！…という幻を語ったのです。捕囚の地、死の世界が、神さまのいのちを喜ぶ世界に変えられていく。それは主なる神さまを心から賛美し、その御言葉を受けていく礼拝から始まると語ったのです。

もう一つの手がかりは、39節「イエスは、御自分を信じる人々が受けようとしている“霊”について言われたのである」という言葉です。主イエスが語られた「生きた水」とは、主イエスを通して与えられる“霊”、つまり「聖霊」だということです。ヨハネ福音書の「聖霊」は、復活の主、しかも十字架の釘跡が生々しく残る主イエスを

通して弟子たちに注がれています。「聖霊を受けよ」と言われて主イエスは息を吹きかけられました。つまり「聖霊」は「十字架の釘跡の残る主」から注がれたのです。ヨハネ福音書の十字架のイエスは「渴く」と言われて、息を引き取られました。なぜ「渴く」という言葉だったのでしょうか。父なる神から託された使命を果たしたという意味でしょうか。あるいは愛する人々のために命を注ぎ尽くしたということでしょうか。いずれにしても主イエスは十字架で、私たちのために愛と赦しを注ぎ尽くしてくださいました。ですからヨハネ福音書における「聖霊」とは、「十字架の主の祈り」、「愛と赦しの祈り」だとわたしは理解しています。「十字架の主の愛と赦し」こそが「生きた水」であり、その「生きた水」が注がれるとき、私たちはまったく新しい存在に変えられるのです。

そして今回「水」について調べてみて「そうなのか」と思ったことがあります。私たちの体は成人で約6割から7割、赤ん坊で約8割が水だそうです。水さえあれば約1か月生きられるけれど、水を一滴も飲めないと二三日で命の危機に瀕します。体の中の水は、体中に血液という形で酸素や栄養を運び、細胞の老廃物を排泄する大切な役割を担う。1%体液が損なわれると喉が渇き、2%損なわれるとめまいと吐き気をもよおす。神さまは、体の中の水がちょっとでも足りなくなってくると渇きを覚えて水を飲みたくなるように造ってくださった。すごい恵みですね。「渇き」を覚えるということは悪いことではなく、体が生き生きと保たれるために必要なことなのです。逆に「渇き」を覚えないということはとても危険なことなのです。老廃物がどんどんたまり、栄養が行き届かなくなり、破滅と死に向かう。その危険を無視することだからです。

これらのことを思い巡らしながら、自分の中には毎日「老廃物をたくさん含んだ濁った水」がどれほどあふれだしていることだろうか…と示されました。わたしの心には苛立ちやため息が毎日噴き出している。それはそのまま放置するなら、わたし自身を死に至らしめる。その「濁った水」「死んだ水」を洗い流し清めるために「生きた水」が必要だ。その「生きた水」は十字架の主が注いでくださる「聖霊」なのです。この「生きた水」として私たちが神さまの恵みを分かち合う新しい存在に造り変えるために主イエスは十字架におかかりになられた。その十字架の主の愛と赦しの祈りを受けていく。わたしは自分の力では「濁った水」「死んだ水」を処理できない。神さまの前に自らの「渇き」を認めて、十字架の主に「愛と赦しの生きた水」を求めていく。その礼拝が私たちと世界を神さまの恵みに向けて変えていくのです。

イザヤは言いました。「渇きを覚えている者は皆水のところに来るがよい」(55:1)。またヨハネ黙示録はこう呼びかけています。「渇いている者には、命の水の源から働なしに飲ませよ」(21:6)と。この「いのちの水」を求めて歩いていきましょう。